

# いっしょに子育て（グループ相談）

「いっしょに子育て」では、グループ相談で講師の方からお聞きしたお話しやアドバイスを分かり易く掲載します。“こんな時どうしたらいいのかな…” “これでいいのかな…” そんな気持ちを抱いた時に参考にして下さいね。

## 1/11 「おむつはずし」

講師：今野 千恵さん（支倉保育所地域子育て支援センター）

おしっこの間隔が1時間半～2時間あくようになったら始めましょう。おまるや補助便座に座ってみたいと思う工夫をしてみてください。無理やり誘うと、トイレは嫌なところというイメージになってしまいます。初めてのトイレでの成功はほとんどが“偶然”です。その偶然をいかに次に繋げるかがトイレトレーニングのコツです。お母さんはたくさんお子さんをほめ、喜ぶ姿を見せてあげましょう。

### Q&A

（一部抜粋）

#### Q.補助便座であそんでしまいます。

A.お子さんにとって補助便座が、他のおもちゃと同様になってしまわないよう、排泄の時だけ座らせるようにしたり、必要のない時は片づけるなどしましょう。

#### Q.せつかくトイレで、できるようになっていたのに、突然行くのを嫌がるようになってしまいました。

A.お母さんの強い思いが伝わり、プレッシャーを感じているのかもしれない。トイレの場所や音、便座などが原因の場合もあります。トイレトレーニングはいったんお休みして焦らず原因を探ってみて下さい。

#### Q.おもらしをされるとつい怒ってしまいます。怒らないためにはどうしたらいいでしょうか？

A.忙しいときにおもらしされたりすると怒りたくなってしまいますね。そんな時は、お子さんに背中を向けて深呼吸をしてみましょう。気持ちが落ち着いてきます。普段から「おもらしても当たり前」と自分にいいかせてみてください。

☆おむつはずしを応援する絵本

「ひとりであんち できるかな」

「のんたん おしっこ ーレーー」 など



～今野先生からメッセージ～

子どもたち一人ひとり、お顔が違うように体のつくりも成長も違います。ゆっくり、ゆっくり お付き合いできるといいですね。

## 8/27 「子どもの事故防止」

講師：阿部 頼子さん（仙台青葉学院短期大学講師）

「まだ小さいながらもヒヤリとした事がすでにあり、これから成長する中で注意することや対処法を知りたい。」と生後5ヵ月から1歳6ヵ月の14組が参加。事故と対処法を教えていただき「とても参考になり、今後活かしたい。」との感想が多数ありました。

### 子どもの事故とお家での対応

（一部抜粋）

#### ★頭を打ったとき

- ・体を動かさず安静にして観察。
- ・腫れている場合は氷や冷却剤で冷やす。
- ・出血している場合は清潔なガーゼやタオルで保護し、圧迫する。
- ・受傷後、最低24時間は子どもの状態に注意し経過観察が必要。

#### ★異物を飲み込んだとき

- ・乳幼児の最大口径は39mmなので、これより小さい物は飲み込む可能性がある。
- ・子どもは口に入れて物を確かめる。豆やピーナッツ、おもちゃなど注意。たばこやボタン電池を飲み込んだ際は、即病院へ連れて行く。



#### ★やけどをしたとき

- ・直後は速やかに衣服の上から流水で30分程、冷却。顔は氷や冷却剤を用いることもある。
- ・やけどの部分の衣服は無理にはがさない。
- ・水泡ができて、無理に破らない。

#### ★溺れたとき

- ・水の高さ5cmから溺れる。（浴槽、便器、バケツの水など）
- ・溺れた子どもを発見したら体をゆする、足を叩く、名前を呼ぶなど意識確認をする。
- ・意識がある場合はタオルで保温、濡れた服を着替える。

～阿部先生からメッセージ～

『事故は親の責任ではない』24時間ずっと子どもを見ていくことはできません。子どもは遊びから勉強し、経験することが大切です。あまり困り込まずに小さな失敗を経験して大事故を防止してほしいと思っています。